Web 制作ガイドライン

2022 年９月　S６作成

アンテナハウス株式会社

目次

1　趣旨 4
2　文言や表記の統一 4
2.1　文言（言葉遣い）の共通化 4
2.2　表記の共通化 5
3　記述ルール 5
3.1　数字は半角 5
3.2　外来語（カタカナ語）表記の語尾の長音を表示 5
3.3　OS や Office は新しい順に記述 5
3.4　句読点・約物 6
3.5　スラッシュ 6
3.6　重言を避ける 7
4　文字量 7
5　製品名の取り扱い 7
5.1　製品名表記 7
5.2　順番 8
6　価格表記の取り扱い 10
7　レイアウト 10
8　メニュー 10
8.1　グローバルメニュー（ヘッダー／フッター） 11
8.2　各製品メニュー 11
8.2.1　デスクトップ製品 11

8.2.2 システム製品......12

9 HTML<head>編集箇所......13

9.1 ページタイトル......13

9.2 キーワード......13

9.3 ページの説明......13

9.4 SNS 向け OGP......13

10 パンくずリスト......14

11 機能特長......14

12 ページ内リンク......14

12.1 項目......15

12.2 順番......15

13 見出し......15

14 コンテンツナビゲーション......16

15 リンク......16

16 オンラインマニュアル......17

17 販売終了・更新終了ページの取り扱い......17

18 HTML 制作ルール......17

19 CSS 制作ルール......18

20 ファイルの命名規則とテンプレート......19

21 禁止事項......20

資料

1 文言（言葉遣い）の共通化（2.1）......21

2 表記の共通化（2.2）......21

３　参考リンク……23
3.1　外部リンク……23
3.2　社内リンク……23

改訂履歴

設定日	担当	内容
2022 年 9 月 1 日	吉田	初版。

1 趣旨

本文書はアンテナハウスの Web ページを制作する担当者向けの制作ルールです。当社の Web ページを制作する場合は本ルールに従ってください。

※表記ルールについては、オンラインマニュアルも可能な限り統一すること。

本ガイドブック制定に伴い、以下に記す既存ルールブックは廃止します。

- ・アンテナハウス Web ページ・デザインガイド 2010 年版（2010 年２月発行）
- ・内部 SEO 対策-Google ドキュメント（2011 年４月発行）
- ・webrule_20110624 （2011 年６月発行）
- ・アンテナハウス Web 制作ガイド（2011 年６月発行）

本ガイドラインは、次の項目に留意して規定しています。

① 閲覧者が迷うことなく目的のページへたどり着くために、シンプルで統一感あるナビゲートでリンクする。

② 一定の共通メニュー・ページを用意するとで、サイト内で慣習的にナビゲートができる。

③ 見出しや本文を構造的に記述したり、統一された文言で記述することで、理解しやすく離脱させないページにする。

2 文言や表記の統一

2.1 文言（言葉遣い）の共通化

- 接続詞はひらがなを使う。
- 副詞もなるべくひらがなを使う。
- やさしい文体で、漢字だらけにならないようにする。
- 不適切な「当て字」を使わない。
- 巻末資料の一覧を参照すること。（1 文言（言葉遣い）の共通化（2.1））

2.2 表記の共通化

- 一般的な用語を使用し、言い回しを平易にする。
- 英語表記ではなくカタカナ表記を優先する。
- 「128-bit AES」など、固有の表記や固有名詞については、正式な表記を優先する。
- 巻末資料の一覧を参照すること。（2 表記の共通化（2.2））

3 記述ルール

3.1 数字は半角

- アラビア数字は、日英に関わらず半角で記述する。

3.2 外来語（カタカナ語）表記の語尾の長音を表示

- 「user」のように英単語の語末が〝-er〞, 〝-or〞, 〝-ar〞などである場合、原則「ユーザー」のように長音を表示する。

  例： フォルダー、インストーラー、ドライバー、プリンター、モニター、コンピューター、サーバー、サーバーソリューション、ヘッダー、フッター、ブラウザー、エクスプローラー、プロセッサー、ナビゲーター、フィルター、マスター、コンバーター、パラメーター、エディター、レイヤー、バッファー、コントローラー、エンコーダー

3.3 OS や Office は新しい順に記述

- OS や Office のバージョンは新しい順に記述する。記述内容にクライアント OS（コンシューマーOS）とサーバーOS が混在する場合は、先にサーバーOS を列挙してそれに続けてクライアント OS を列挙する。 （システム製品の場合）
- OS の記述については Microsoft を省略して記述する。

  例： 1） Windows 11 日本語版

  Windows 10（32 ビット/64 ビット） 日本語版

2）Windows Server 2022（64 ビット）日本語版

Windows Server 2019（64 ビット）日本語版

Windows Server 2016（64 ビット）日本語版

Windows 11 日本語版

Windows 10（32 ビット/64 ビット） 日本語版

- その他、Office 製品を列挙する場合は、次のように記述する。

  例： Microsoft Word/Excel/PowerPoint

3.4 句読点・約物

- 句点は「。」、読点は「、」。

  ※ 和文の文脈ではカンマ、ピリオドは用いない。

- 。、（）「」これらは全角の記号を用いる。和文の文脈では半角を使用しない。半角の″()″を使うのは、欧文の文脈のみ。

  例：日本語（English paragraph, (This is also english).）日本語です。

  ※ 最初と最後の（）は全角。2 番目、3 番目の()は半角。

- 読点「、」を多用しないよう心がける。読点を多用すると文章がちぎれた印象になり読みづらい。

- 2 語のカタカナ語は「・」で区切らない。ただし、3 語以上のカタカナ語、あるいは長くて読みづらい場合「・」で区切ってよい。

  例： テキスト・オブジェクト → テキストオブジェクト

  トップ・ページ → トップページ

3.5 スラッシュ

- スラッシュについて、OS やソフトウェアでバージョンやバリエーションなどを並列して表記する場合に用いるスラッシュは半角を使用する。

  例： ○）Windows 10（32 ビット/64 ビット） 日本語版

  ×）Windows 10(32 ビット／64 ビット) 日本語版

〇）Microsoft Word（2019/2016/2013）

×）Microsoft Word（2019／2016／2013）

- 和文の文脈ではスラッシュは全角を使用する。ただし、グローバルメニューなど、スペースが限られる場合には和文でも半角スラッシュの使用を可とする。

3.6 重言を避ける

例： 一番最初 → 最初（一番最後 → 最後）

まずはじめに → はじめに

4 文字量

- 文字ばかりのページにならないように作成する。必要に応じて画像や図、アイコンを取り入れて読みやすい構成にする。
- 異なるトピックで文字量が多い場合は 1 ページにまとめず、ページを分ける。

5 製品名の取り扱い

5.1 製品名表記

- 文中に自社製品を記述する場合は製品名を二重かぎ括弧で囲む。
- ただし、title タグや h タグに囲まれている場合や、リスト内やタイトルとして使用されている場合は二重かぎ括弧を使用する必要はない。
- メニュー：製品名先頭の Antenna House は省略する。
- 「Antenna House」を「AH」と省略しない。（「AH」はアンテナハウスの商標をとっていないためアンテナハウスの製品である主張ができないため。）

- Web ページ本文：初回のみフル表記、２回目以降省略する。
- バージョンの区別が必要な場合にはバージョンも表記する。省略しても意味が通る場合にはバージョンは表記しない。

例：

> 『Antenna House Formatter』をご利用のお客様からいただいたお褒めの言葉をご紹介します。今後も皆様のご期待にお応えできるよう、『Formatter』及びサービスの向上に尽力して参ります。

5.2 順番

- 製品名を表記する順番は、製品カテゴリー分類別に、以下のとおり統一する。

デスクトップ製品

#	製品名
1	瞬簡 PDF 統合版
2	瞬簡 PDF 書けまっせ
3	瞬簡 PDF 変換
4	瞬簡 PDF 作成
5	瞬簡 PDF 編集
6	瞬簡 PDF to Image
7	自在眼

プロ向けシリーズ

#	製品名
1	アウトライナー
2	HTML on Word
3	PDF Advanced Extractor

システムコンポーネント製品

#	製品名
1	Formatter
2	Web Interface for Formatter
3	Office Server Document Converter（OSDC）

4	Web Interface for OSDC
5	PDF Tool API
6	PDF Driver API
7	PDF Driver
8	PDFXML 変換ライブラリ
9	PDF Viewer SDK
10	PDFtoCells 変換ライブラリ
11	TextPorter

ソリューション製品

#	製品名
1	PDF Server
2	リグレッションテストシステム

OEM 専用製品

#	製品名
1	PDF Creator
2	自在眼 SDK

電子取引/署名/スキャナ製品

#	製品名
1	e-Success
2	e-Success on ONeSaas
3	ScanSave
4	電子取引 Save
5	LE:PAdES:Lib
6	LE:XAdES:Lib

XML/DITA/電子出版

#	製品名
1	oXygen
2	XMetaL
3	DITA サービス
4	電子出版サービス

6 価格表記の取り扱い

- デスクトップ製品は、本体価格　○,○○○円（税込○,○○○円）と記載する。

例：

瞬簡PDF 変換 11
パッケージ（CD-ROM）版
本体価格 **8,000** 円（税込
8,800円）

- システム製品は、価格（税別）と記載する。

例：

購入区分	価格（税別）
新規シングルライセンス	48,000円
既存/同一ユーザーの2本目以降の新規ライセンス	36,000円

7 レイアウト

- 各製品に共通するページは用意されたテンプレートに沿って作成する。
- テンプレートの構成内容や順番は変更しないこと。

8 メニュー

- それぞれ項目数は 7±2 を基準とする。
- メニューはカテゴリーごとに分けて構成し、異なるカテゴリーに属するページのリンクを配置しない。

8.1 グローバルメニュー（ヘッダー／フッター）

- 全ページに共通で表示されるメニュー(グローバルメニュー)は、別途、見直しを予定する。

#	タイトル	ページの内容（リンク先）	備考
1	トップページ	アンテナハウス株式会社トップページ	
2	デスクトップ製品情報	デスクトップ製品情報トップページ	ドロップダウンメニューあり
3	システム製品情報	システム製品情報トップページ	ドロップダウンメニューあり
4	XML/DITA/電子出版	XML/DITA/電子出版サービストップページ	
5	電子取引/署名/スキャナ保存	電子取引・署名・スキャナ保存製品情報トップページ	
6	サポート	ユーザーサポート	
7	購入案内	製品の購入についてトップページ	
8	お問い合わせ	お問い合わせトップページ	
9	会社案内	会社案内	
10	About Us	About Us	

8.2 各製品メニュー

- 各製品ページで本文横に表示されるメニュー。
- メニュー項目にはそれぞれ個別ページのリンクを配置し、ページ内リンクは配置しない。

8.2.1 デスクトップ製品

#	タイトル	概要	備考
1	製品トップ	製品概要	必須
2	機能紹介	機能紹介	必須
3	動作環境／制限事項	動作環境や制限事項	必須
4	事例紹介	事例紹介、お客様の声	
5	評価版のお申し込み	評価版の案内	

6	使い方動画	使い方動画、ウェビナー動画	
7	オンラインマニュアル	オンラインマニュアル	サポートメニュー
8	POD 版マニュアル	POD 版マニュアル	サポートメニュー
9	マイページ／製品登録	オンラインショップマイページ	サポートメニュー
10	改訂情報	改訂情報（製品別）	サポートメニュー
11	よくいただくご質問	よくいただくご質問（製品別）	サポートメニュー
12	旧製品情報	旧製品情報（対象製品にアンカー）	サポートメニュー

8.2.2 システム製品

#	タイトル	概要	備考
1	製品トップ	製品概要	必須
2	機能紹介	機能紹介	必須
3	動作環境／制限事項	動作環境や制限事項	必須
4	ライセンスと価格	ライセンス体系、価格、OEM など	必須
5	事例紹介	事例紹介、お客様の声	
6	評価版のお申し込み	評価版の案内	
7	使い方動画	使い方動画、ウェビナー動画	
8	活用例	活用例、サンプル FO、コード	
9	機能比較表	バージョン間の機能・動作環境比較	
10	資料請求	資料請求	
11	オンラインマニュアル	オンラインマニュアル	サポートメニュー
12	PDF 版マニュアル	PDF 版マニュアル	サポートメニュー
13	バージョンアップ	バージョンアップについて	サポートメニュー
14	改訂情報	改訂情報（製品別）	サポートメニュー
15	よくいただくご質問	よくいただくご質問（製品別）	サポートメニュー
16	旧製品情報	旧製品情報（対象製品にアンカー）	サポートメニュー

9 HTML<head>編集箇所

詳細についてはテンプレートを参照。

9.1 ページタイトル

- Web ページのタイトルは、製品名とページの内容に関するタイトルを設定する。製品トップは「製品の特長やキャッチコピー – 製品名」、その他のページは「ページをあらわすタイトル – 製品名」とする。（ハイフンは半角、ハイフンの前後は半角スペース）

  例：トップページ：　PDF の作成と、結合/分割などの編集ソフト – 瞬簡 PDF 作成 9

  　　機能ページ：　機能紹介：PDF の作成 – 瞬簡 PDF 作成 9

  　　動作環境ページ：　動作環境/制限事項 – 瞬簡 PDF 作成 9

- 製品ページ以外は「ページをあらわすタイトル – アンテナハウス」と設定する。

  例：会社案内：　会社案内 – アンテナハウス

9.2 キーワード

- 現在、キーワードは SEO 的には無視されるため記載は不要とする。

9.3 ページの説明

- ページの内容を簡潔にまとめ、100～120 字程度で記述する。

9.4 SNS 向け OGP

- SNS でシェアしてもらいたいページには OGP を設定する。SNS 上で適切に表示されるためレスポンスが向上する。

10　パンくずリスト

- 現在表示しているページから上位カテゴリーへ移動できるようにするためのナビゲーションを各ページの上部に設置する。
- 自ページの箇所（一番最後）はリンク不要とする。
- リンクはディレクトリに合わせた相対パスで指定する。（「index.html」は省略可。同じディレクトリ内の index.html にリンクする場合は「./」で指定する。）

例：製品トップページ：トップページ ＞ デスクトップ製品情報 ＞ 製品名 製品トップ

機能紹介ページ：トップページ ＞ デスクトップ製品情報 ＞ 製品名 製品トップ ＞ 機能紹介：[機能紹介 1]

お知らせ：トップページ ＞ デスクトップ製品情報 ＞ 製品名 製品トップ ＞ お知らせ

11　機能特長

- この項目の有無は任意です。この項目をページ内に設定する場合は以下を基準としてください。
- 製品トップページ上部に機能の特長を簡潔に表した語句を記載する。
- 単語のみではわかりづらいので何をどうできるかがわかるように記載する。

例：　×「PDF」「XML」　○「PDF 作成」「PDF 編集」「XML 変換」

- 機能特長の個数はあまり多くならないようにする。２行に収まる程度。

12　ページ内リンク

- この項目の有無は任意です。この項目をページ内に設定する場合は以下を基準としてください。
- ページ内リンクは、そのページの<h2>見出しに対して付ける。ただし、<h2>見出しが一つしかない場合はページ内リンクの配置を省略する。
- ページ内リンクには別ページに遷移するものは記載しない。

- ページ内リンクの配置場所は以下のとおりとする。
  製品トップページ：画像、キャッチコピー、ページ内リンクの順に配置する。
  その他のページ：ページのタイトル、ページ内リンクの順に配置する。

12.1　項目

- 項目数は７つまでとする。
- 規定の項目数以上になる場合には、項目を厳選するか、別ページを設け、１つのページ内の情報量が多くならないようにする。
- 項目名は簡潔にする。文章などをそのまま項目名にしない。
- 項目名は該当の見出しと一致させる。
- 製品トップページなど、テンプレートがあるものについては、項目名を統一する。
- お知らせは製品トップページの最下部に配置し、表示は5件までとする。5件を超える場合には、「すべてのお知らせ」の HTML ファイルを作成し、５件＋「すべてのお知らせ」ページへのリンクを配置する。
- お知らせと改訂情報の関係：お知らせには改訂版のリリースに関する情報を記述する。改訂情報には改訂内容について箇条書きで記載する。お知らせの中の改訂版リリースから、改訂情報へのリンクを配置する。

12.2　順番

- ページ上部に記載する順番とページ内での記載の順番を揃える。
- 製品トップページなど、テンプレートがあるものについては、項目の順番を変更しない。

13　見出し

- １ページ当たりの項目数は７つまでとする。
- 見出しは簡潔で明確な表現を使用する。文章などをそのままや製品名のみを使用しない。
- 見出しにはアンカータグを使用しない。

14　コンテンツナビゲーション

- 製品ページの最下部には各ページを順番に全て閲覧するためのリンクを設置する。順番は製品メニューの順とする。

  例：　製品トップ ⇒ 機能紹介１ ⇒ 機能紹介２、、、⇒ 動作環境/制限事項 ⇒ 製品個別のページ（事例、使い方など）　⇒ 最後は「製品名：製品トップ」リンクで製品トップに戻れるようにする。

- 上記製品メニューにないサブ（子）ページの場合はリンク元へ戻るリンク（あるいは製品のトップページに戻る）のみ配置するか、サブ（子）ページどうしの関連性が高く順番に閲覧するメリットがある場合は、そのサブページ内で順に送るリンクを配置する。

- 順に送る場合は最終ページの「次のページ＞＞」リンクは、該当の親ページにリンクする。

  例：製品トップページの「お知らせ」に「すべてのお知らせ」リンク（info.html）を付けた場合、その「すべてのお知らせ」ページから製品トップページに戻る「＜＜前のページ　製品名：製品トップ」というリンクをつける。

15　リンク

- 共通部品にて規定されたボタンがある場合にはそのボタンを使用する。
- 規定されたボタンが無い場合には通常のリンクを使用する。
- 通常のリンクのデザイン・挙動については共通で設定するため、独自の設定は行わない。
- サイト内のリンクは同一ウィンドウで表示し、サイト外のリンクは別ウィンドウで表示する。
- 別ウィンドウで表示（target=”_blank”）する場合は、共通部品にて規定されているアイコンと”title”で指定する。
- 可能な限り文章中にリンクを配置しない。必要な場合は、段落終わりなどの区切りのタイミングで配置する。

  例：　△）PDF の編集は『PDFTool API』を利用した開発が可能です。

  〇）PDF の編集は『PDFTool API』を利用した開発が可能です。

  → 『PDFTool API』製品ページ

16　オンラインマニュアル

- サポートの連絡先などの情報は一般に公開しておらず、購入したユーザーのみに公開しているため Web に公開するマニュアルからは削除する。
- Web ページのデザインは同一製品ファミリー内で統一する。

17　販売終了・更新終了ページの取り扱い

- 現状、レイアウトが他と乖離したページや、メンテナンスされていないページにもアクセスできてしまうが、販売終了で保守期間中の製品については許容する。
- 販売終了後 5 年を経過した後（つまり、保守期間を終了した製品）の情報は、原則として Web ページの過去製品のリストにのみ残すこととし、製品ページ本体の詳細情報ページは除去する。

18　HTML 制作ルール

- Web ページはモバイルでもきれいに表示できるように確認しながら制作する。
- できるだけ汎用のスタイルシートで済ませることができるよう、テンプレートで指定されている class、id は変更しない。
- レイアウト目的の表の使用は避ける。データ構造が表であるものを表で表す。
- 表を使う場合、width 属性の設定を使わないでリフロー可能な Web ページとする。
- HTML＋CSS とする。
- HTML マークアップは Living Standard の HTML（いわゆる HTML5）に準拠する。（非 XHTML）
- HTML 要素のタグ内にはできるだけスタイル用の属性をつけないこと。HTML のタグにスタイルをつけるのは、局所的にレイアウトを制御することを避けることができないときに限定すること。
- 文字コードは、UTF-8 BOM なしとする。
- ファイルの拡張子は.html とする。

- ファイル読み込みなどで URL を記述する際は、基本的に相対パスを使用する。ただし、一部の共通で使用するファイルについてはサーバーのルートからの相対パス（URL を記述する際に「/」スラッシュで始まるもの）を使用する。

  ・共通で使用している /js/ ディレクトリの javascript（js ファイル）

  ・共通で使用している /css/ ディレクトリの css ファイル

- 各ディレクトリの index.html へのリンクは index.html を省略する。（同じディレクトリから index.html にリンクする場合は "./"を使う ）
- 装飾に使用する画像やアイコンは、テンプレートの共通部品にあるものから使用する。

19 CSS 制作ルール

- CSS は、極力外部ファイルとする。
- 色、フォント、文字サイズ、見出しのデザインなどのスタイルは共通の外部 CSS をリンクし、製品別のカスタマイズはできるだけ避ける。
- 事情により個別のスタイルを指定する際には、class や id を指定する。他のスタイルに影響が出るため、タグに対してスタイルを指定しない。

20　ファイルの命名規則とテンプレート

※テンプレートはそれぞれＤ：デスクトップ製品　Ｓ：システム製品にリンクしています。

＃	項目	ファイル名	ﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄ	備考
1	製品フォルダ	/製品名/　※小文字	-	必須
2	製品トップ	index.html	D / S	必須
3	機能紹介	function.html function02.html 、、、 または function-xxx.html （「xxx」は機能を表す半角英数字の文字列） 例：function-pdf-create.html、function-pdf-write.html	D / S	必須
4	動作環境／制限事項	spec.html	D / S	必須
5	評価版	trial.html	D / S	
6	ライセンスと価格	license.html	S	システム製品必須
7	改訂情報	/製品名/productname10.html ※10 はバージョン（1.0 の意味）を記載 例.（製品ページからの相対パス） ・Word API V1.0 の場合 ../support/update/xtd/xtd10.html ・formatter V7.2 の場合 ../support/update-sys/ahf/ahf72.html	D / S	デスクトップ製品 /support/update/ システム製品 /support/update-sys/ に配置する
8	お知らせ	info.html	D / S	
9	製品固有の画像フォルダ	/製品名_img/	-	
10	製品固有の css	製品名.css	-	原則使用しない
11	製品固有の js	製品名.js	-	原則使用しない

※10,11 に関して、足りないものや、必要なスタイルやスクリプトを追加で設定したい場合は作成する前に S6 の Web 刷新グループへご相談ください。共通スタイルでの代用または追加を検討します。

- この表に記載のないものについては自由に指定可能とする。ただし、できるだけ内容がわかりやすくあまり長くないファイル名にすること。
- ファイル名とフォルダ名はすべて半角の小文字を使用し、文字列が分かりにくい場合は「-」（半角ハイフン）でつなぐ。

  例：ファイル名：×）PDFManualDownload.pdf　O）pdf-manual-download.pdf

  　　フォルダ名：×）word_api　O）word-api

  ただし、ファイルの保管場所となるようなフォルダ名は「_」（半角アンダーバー）を使用する。

  例：productname_img , download_data , entry_pdf　など
- すでに作成されているファイルについては作り直す必要はない。

21　禁止事項

- 注意を促す場合に赤文字や極端に大きな文字を使わない。
- 本文横のメニューにページ内リンクを配置しない。
- 見出しにアンカータグを使用しない。
- 見出しに製品名のみを使用しない。
- サーバー上にテストページなどの一時ファイルや不要ファイルを残さない。
- バックアップ目的で制作したファイルは定期的に削除する。
- 「Antenna House」を「AH」と省略しない。（「AH」はアンテナハウスの商標をとっていないためアンテナハウスの製品である主張ができないため。）

資料

1　文言（言葉遣い）の共通化（2.1）

共通化後	共通化する文言
お問い合わせ	お問合せ、お問い合せなど
行う（行います）	おこなう/行う/行なう
すべて	すべて/全て
したがって	従って
ください	ください/下さい
いたします	致します
ただし	但し
なお	尚
～のとおり	～の通り
ため	為
ございます	御座います
お申し込み	お申し込み、お申込み
お知らせ	お知らせ、新着情報

2　表記の共通化（2.2）

統一表記	使わない表記	用途・理由
YYYY 年 MM 月 DD 日 （MM および DD はゼロ埋めしない）	YYYY/MM/DD	本文中では、2022/1/5 という表記を使わない。 表では許容するが、同じような項目が他の製品、ページなどに存在する場合はそれらで共通化する。また、スペース上や表現上問題なければなるべく「YYYY 年 MM 月 DD 日」を使用する。
強化内容		機能を追加した項目のことを示す。
改修内容	改正内容、改善内容	バグを修正した項目のことを示す。

改訂 n 版（MRn） ※n は半角、前後にスペースは入れない	MRn	日本語版のメンテナンス・リリースでは MRX ではなく改訂 X 版という表記に統一する。MR だと特に素人には意味不明なので。 例：改訂２版（MR2）
改訂版	アップデータ	改訂という用語に統一する。
税込	税込み	
プロフェッショナル	Professional	カタカナ表記を優先する。
スタンダード	Standard	カタカナ表記を優先する。
ライト	Lite	カタカナ表記を優先する。
トップページ	[Home]	
特長	特徴	製品の長所を述べる場合は、特長を使う。
以下のとおり	下記のとおり	「下記の通り」は「記」としるして内容を記述し、最後に「以上」で終わる文章に用いる。
ビット	bit	カタカナ表記を優先する。
Web ページ	ウェブページ、ホームページ、サイト	
パターン	パタン	長音を表示することに従って、パタンのような単語についてもより日本人がわかりやすく表記する。
サーバーライセンス	サーバライセンス	
スタンドアロンライセンス		
開発ライセンス または 開発ライセンス（デベロッパーライセンス）	デベロッパーライセンス、デベロッパ・ライセンス、デベロッパーライセンス（開発ライセンス）	
評価版ライセンス	体験版ライセンス	
ASP ライセンス		
OEM ライセンス	再販権付ライセンス	

3　参考リンク

3.1　外部リンク

- HTML Living Standard

  https://html.spec.whatwg.org/multipage/

- HTML クイックリファレンス

  http://www.htmq.com/html5/

- Markup Validation Service

  https://validator.w3.org/

3.2　社内リンク

- 共通部品

  https://www.antenna.co.jp/productname/parts-common.html

- テンプレート

  デスクトップ製品：https://www.antenna.co.jp/productname/

  システム製品：https://www.antenna.co.jp/productname-sys/